第9回神儒仏合同講演会 「今を生きぬく」をテーマに

二〇〇八年に発生した秋葉原無差別殺傷事件を契機に、心の通い合う社会のために何かできることを、と二〇〇九年から地元の神儒仏関係者（宗教法人神田神社、公益財団法人斯文会、公益財団法人中村元東方研究所）により毎年開催されてきた「神儒仏合同講演会」が今年で第九回目を迎え、「『今』を生きぬく」をテーマに七月二十九日に東京都の神田神社・祭務所ホールで開催。百六十余人もの参加者が集い行われた。

当日は午後一時に開会、「現代は国際的にも国内的にも荒れ果てた社会になっている。どれだけのことができるか分からないが、私どもは少しでも人々が前向きに生きていけるように、〝心の通い合い〟を総合テーマに置き、毎年さまざまな講師からの講演の場を設けてきた。本年のテーマは、『今』を生きぬく」。神儒仏の各知恵と教えをじっくり聴いて」と中村元東方研究所常務理事の奈良康明氏が開会挨拶し、その後、三教それぞれの講演が行われた。以下は講演内容。

東京・神田明神で

心の通い合う社会のために、少しでも前向きに生きていけるように

●神道●

日本を元気にする古事記のこころ

湯島天満宮権禰宜　**小野善一郎氏**

今を生きぬく上で一番大切なことは「自分とは何か」を知ることである。神道では、私たちは天地の御霊を受けた存在で、元々は綺麗なのである。汚れたとしても、いつでも綺麗な御霊に戻ることができる。戻るためには祓いが必要で、神道とは祓いに始まり、祓いに終わると私は考えている。

天地はすべての命の源で、そこから五つの神様が生まれた。別天神と呼ばれる特別な神様だ。この神様から命は連鎖し、今私たちにつながっている。神道の教えでは祓いをすれば、この天地にいつでも戻れる。私たちの「中」に神様が宿っているということだ。

祓いとは「大祓詞」のことである。大祓詞を奏上すれば、私たちは天地の御霊に戻れる。文字のなかった時代にはどうやって行われたか。それは「祭り」である。最新の考古学では一番古い祭りは一万五千年前に行われていたそうだ。人々は祭りによって天地の御霊に戻っていた。大祓詞は覚えるのは大変だが一日一回は奏上して綺麗な御霊に戻して欲しい。

日本人はすべての物には神様が宿っていると考える。日本人がいろいろなものに神を見出すのは祓いに始まり、祓いに終わる自分の中に神という存在があるからである。自分の中にあるからこそいろいろなものにあると感じられる。自分やその周りのものに神を見出す理由を理解することは、今を生きぬく上で大切になるだろう。

……

●儒学●

今、求められているのは「知恵」と「覚悟」

日本女子大学名誉教授　**谷中信一氏**

温故知新という格言があるが、これほど今日のテーマに合う言葉は無いと思う。先人の知恵を学ぶ上で先ず挙がるのは、人類の知的遺産・古典だろう。しかし、古典から得られるのは所詮「知識」に過ぎない。書物の上に書かれていることはどんなに立派でも、いわば死んだ知識であり、これを自分にとってかけがえのない生きた知識、つまり「知恵」にしていく必要がある。「知識」は頭の中に宿り、記憶して詰め込むことはできるが、忘れてしまう。反対に「知恵」は心に刻みつけるので詰め込めないが、忘れることはない。「知識」を「知恵」にしていく為には、死んだ知識を自分の経験などのフィルターに通し、しっかりと裏付けを得て生きた知識として活用できるようにし、身につける必要がある。こうして「知識」が「知恵」となるのだ。

人生とは、過去から現在そして未来へと繋ぐ、連続した「今」である。人は過去にも未来にも生きてはいけない。「今」でしか生きられない。しかし、刹那的な「今」ではいけない。「今」の自分は未来の自分と結びついているのだ。

今を生きぬくためには、決して生やさしくない「今」と直面しなければならない。その「今」を生きぬくために必要なものは、先人がまさしくその折々の「今」を生きぬいていく上で身に付けた珠玉の知恵と、それらのかけがえのない宝物に支えられた自身のぶれない「覚悟」ではないだろうか。この「覚悟」は信念と置き換えてもいいだろう。

●仏教●

日々新なり、また日新なり

駒澤大学名誉教授　**田上太秀氏**

儒教の経書「四書」の一つ『礼記』の中の一篇に「苟に日に新たに、日日に新たに、又日に新たなり」という言葉がある。この「新た」を現代の言葉で表すならば「革新」だろう。自分を一日一日新たなものとして発展させ、自分の考え方や生き方をこれでいいのかと日々自省し、見直していきなさいという意味である。

本年のテーマの「今」とは日々、己を革新することであり、つまり心の持ち方を新たにすることである。

また個人個人が貪り、怒り、驕りの心を起こさないようにする。人間を煩わせる煩悩を起こさないようにすることに、日々繰り返し自省することである。世の中が縁和合で作られていることに気づき、煩悩を起こさないようにすることと、「今を生きぬく」ということはこれに尽きるのではないだろうか。

三教の講演が終わり、神田神社権宮司の清水祥彦氏が「私は日本人に生まれてよかったと思っている。海外の一神教では自分たちこそが正しい、他は駄目という教えだが、日本の教えは何でも良いものは良いと言えるのだ。しかし、自分の子供に覚悟をもって何が正しく、何が間違っているのか教えられるだろうか。今日学んだことを是非近隣の方でも、ご家族でも語って欲しい。神儒仏の素晴らしい教えを共有して欲しい」と総括。

また閉会の挨拶には中村元東方研究所理事長・東方学院長の前田專學氏が立ち、「中村元先生は世界中の宗教を比較・研究された結果、世界中で起きている問題が同じ内容であることに気づかれた。その問題に対する重要なワードとして東洋思想の精神的伝統を挙げられた。精神的伝統とは世界中に遍く浸透する温かな心。思想に異はあれども、人間性は同じである。この言葉も今を生きぬくヒントになるだろう」などと括った。

満席の会場で開会挨拶をする奈良氏